



令和2年度 水稻生育診断情報 No.4

(令和2年7月22日)

(情報作成)滋賀県農業技術振興センター

近江八幡市安土町大中 516 (TEL:0748-46-4391)

(今回は 8/21 頃の予定)

現在の生育状況

◎作況調査では、「みずかがみ」「コシヒカリ」とも草丈は平年並、茎数は少ない。

「みずかがみ」の出穂期は、7月上旬～中旬の気温が低く、平年より2日遅い7月24日頃の見込み。

◎県内ほ場の「みずかがみ」では、7月20日頃を中心に出穂期を迎えている。5月上旬移植の「コシヒカリ」では7月25日頃に出穂期を迎える見込み。

管理のポイント

◎稲作期間の中で出穂期前後の要水量が最も多く、特に白未熟粒等の発生を軽減するため、出穂期前後各3週間は常時湛水を行う！ 深水にせず水深3cmから5cmの浅水で管理する。

◎いもち病の感染好適条件が出現しており、ほ場での発生状況を確認し、発生が認められたら防除を行う！

◎斑点米カメムシ類の発生状況は、大型カメムシ（ホソハリカメムシ等）が多い傾向にあり、防除は糊熟期頃（出穂10～20日後）に行う。ただし、カスミカメムシ類が確認できるほ場では乳熟期頃（出穂7～10日後）に防除する。

1 気象の経過と予報

(1) 気象の経過 (彦根気象台観測、平年は過去10年間の平均)

| 期間 | 要素 | 最高気温 | 最低気温 | 日照時間 | 降水量 |
|----|----|-------|-------|--------|--------|
| | 7月 | 上旬 | 低い | 低い | かなり少ない |
| 中旬 | | かなり低い | かなり低い | かなり少ない | かなり多い |

(2) 近畿地方1か月予報(7/18～8/17までの天候見通し)【大阪管区気象台7月16日発表】

- 平年に比べ晴れの日が少ない。
- 向こう1か月の降水量は、平年並または多い確率ともに40%。日照時間は近畿日本海側で少ない確率50%、近畿太平洋側で平年並または少ない確率ともに40%。
- 週別の気温は、1週目は低い確率50%。2週目は平年並または低い確率ともに40%。3～4週目は平年並または高い確率ともに40%。

2 生育状況

【農業技術振興センター 水稻作況調査(7月20日時点)による。表1および後掲グラフ参照。】

- 7月10日時点の草丈は、「みずかがみ」「コシヒカリ」とも平年並であった。
- 7月10日時点の茎数は、両品種ともに平年より少なかった。
- 葉色は、両品種とも平年より濃く推移している。

7月20日現在の生育状況



「みずかがみ」



「コシヒカリ」

表1 令和2年(2020年)水稲作況調査 生育調査結果

滋賀県農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

| 基準日 月/日 | 品種名 | 草丈(cm) | | | | 茎数(本/m ²) | | | | 葉色(SPAD値) | | | | 主稈葉数(枚) | | | |
|------------|-------|--------|------|-----|------|-----------------------|-----|----|-----|-----------|------|-----|------|---------|------|-----|------|
| | | 本年 | 平年 | 比 | 前年 | 本年 | 平年 | 比 | 前年 | 本年 | 平年 | 比 | 前年 | 本年 | 平年 | 較差 | 前年 |
| 6/20 | みずかがみ | 54.6 | 44.5 | 123 | 45.7 | 463 | 545 | 85 | 487 | 43.0 | 41.3 | 104 | 39.3 | 10.0 | 9.7 | 0.3 | 9.5 |
| | コシヒカリ | 55.2 | 44.6 | 124 | 46.5 | 503 | 568 | 89 | 568 | 43.2 | 42.0 | 103 | 42.3 | 9.8 | 9.4 | 0.4 | 9.5 |
| 6/30 | みずかがみ | 64.6 | 63.9 | 101 | 63.0 | 473 | 594 | 80 | 549 | 42.6 | 41.2 | 103 | 40.4 | 11.4 | 10.9 | 0.5 | 10.8 |
| | コシヒカリ | 64.7 | 65.1 | 99 | 65.1 | 544 | 621 | 88 | 633 | 42.1 | 41.5 | 101 | 41.0 | 10.8 | 10.6 | 0.2 | 11.2 |
| 7/10 | みずかがみ | 81.8 | 78.9 | 104 | 75.8 | 453 | 532 | 85 | 450 | 43.2 | 40.2 | 107 | 40.6 | 12.7 | 12.3 | 0.4 | 12.2 |
| | コシヒカリ | 79.6 | 80.2 | 99 | 79.2 | 508 | 572 | 89 | 538 | 40.1 | 37.4 | 107 | 37.8 | 12.1 | 11.7 | 0.4 | 11.9 |
| 7/20 | みずかがみ | - | 94.0 | - | 92.0 | - | 483 | - | 423 | 40.4 | 37.7 | 107 | 38.5 | 13.6 | 13.2 | 0.4 | 12.9 |
| | コシヒカリ | - | 93.3 | - | 89.9 | - | 505 | - | 453 | 40.4 | 37.7 | 107 | 39.1 | 13.4 | 13.0 | 0.4 | 13.2 |

※移植日：5月11日(播種日：4月21日)。栽植密度：18.5株/m²、植付本数3本/株。

※平年は、H25～R1年(7年間)の平均値。

表2 水稲作況調査 生育ステージ

滋賀県農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

品種：「みずかがみ」

| 生育ステージ | 本年 | 平年 | 較差 | 前年 |
|--------|-------|-------|----|-------|
| 幼穂形成期 | 6月29日 | 6月29日 | 同日 | 6月29日 |
| 出穂期 | 未 | 7月22日 | - | 7月23日 |

品種：「コシヒカリ」

| 生育ステージ | 本年 | 平年 | 較差 | 前年 |
|--------|------|-------|------|-------|
| 幼穂形成期 | 7月4日 | 7月3日 | 1日遅い | 7月1日 |
| 出穂期 | 未 | 7月27日 | - | 7月27日 |

※移植日は5月11日(播種日：4月21日)。

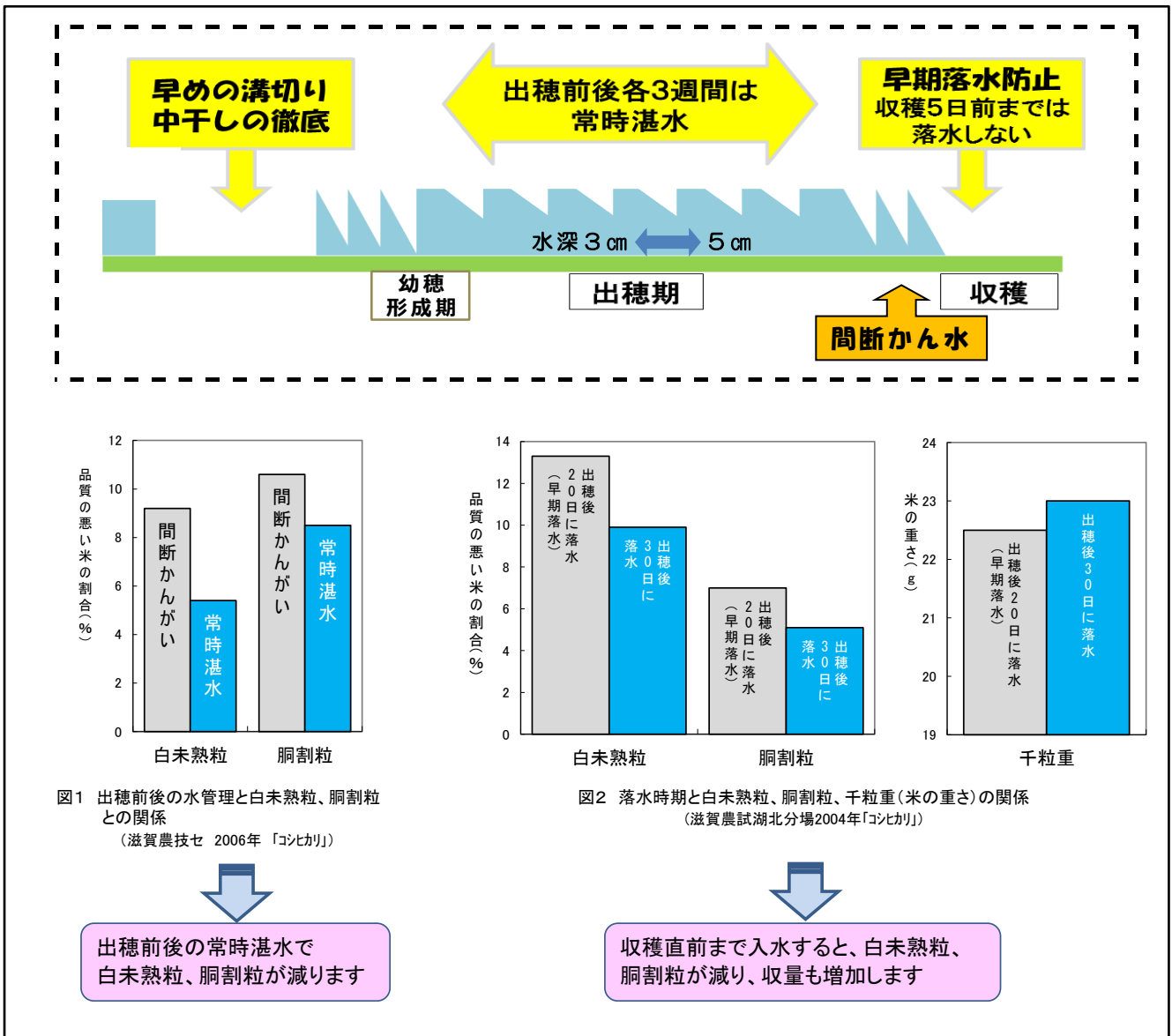
※平年は、H25～R1年(7年間)の平均値。

3 今後の管理

(1) 適正な水管理

- 出穂期前後は、水稻の一生の中で最も多くの水を必要とする時期であり、水が不足すると稲が十分に光合成できず、白未熟粒の発生や籾の充実不足が助長されるため、出穂前後各3週間は常時湛水管理を行う（図1）。
- 湛水管理では、深水にならないように、水深3cm～5cmの浅水管理を行う。
- 落水時期の目安は収穫の5日前であるが、収穫作業に支障がない限り出来るだけ遅らせ、根や葉の活力を収穫直前まで維持させる（図2）。

※用水利用にあたっては、掛け流しや深水管理等、必要以上の取水にならないよう、こまめな水管理を徹底する。



(2) 適期収穫

- 出穂後の気温が高い年は登熟日数が短くなる傾向にあるので、早生品種（「コシヒカリ」等）だけでなく、中生品種（「秋の詩」等）でも、出穂後30日を過ぎたら収穫できるよう準備を整えておく。
- 収穫時期が近づいたら、ほ場に入って穂（籾）の色をしっかりと確認し、黄化籾が85～90%になった頃に収穫する（図3）。

特に、高温年は出穂のばらつきが大きくなる傾向があるので、収穫適期をしっかりと見極めて刈り遅れないよう注意する。

☆過去7年の登熟日数（水稻作況調査データより）

| 年次 \ 品種名 | みずかがみ | コシヒカリ |
|----------|--------|--------|
| H25年～R元年 | 32～34日 | 32～37日 |

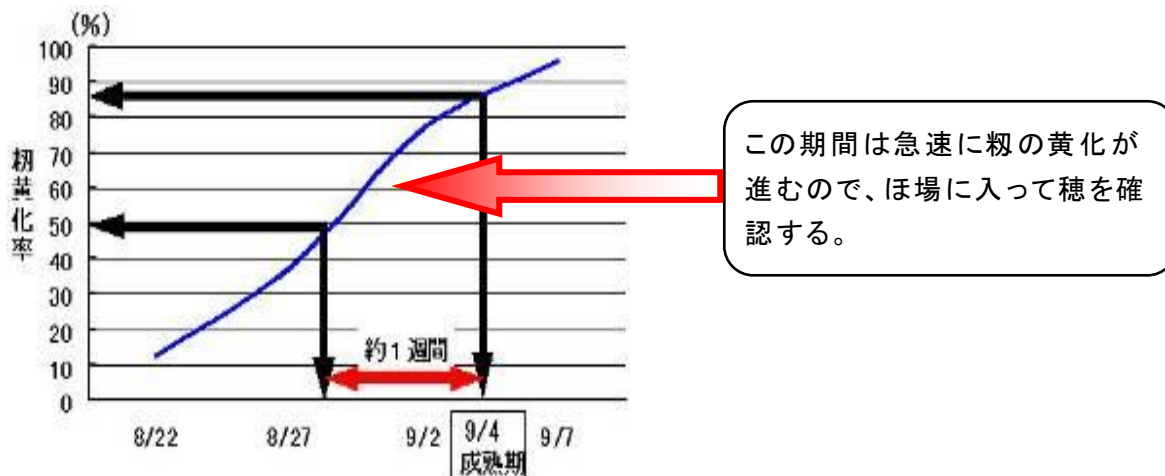


図3 成熟期前の籾黄化率の推移（農業技術振興センター2008年「コシヒカリ」）

注）調査方法：黄化籾の標準見本色を基準に黄化籾と青籾を目視で計数。

（3）病虫害防除

7月21日発表の「病虫害発生予報第7号」

（<http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/yosatsu/yosatsuzuyohou/yohou/> または [県 HP 組織から探す](#) > 農政水産部 病虫害防除所 > 発生予察 > 発生予察情報 > 病虫害発生予報）を参照

予報第7号より抜粋

① 穂いもち（発生時期：平年並、発生量：やや多）

→【一部地域で葉いもちの発生が多くなっています。防除情報第3号「穂いもちに要注意！」を確認しましょう！】

- 「コシヒカリ」「キヌヒカリ」「秋の詩」「滋賀羽二重糯」は、発生しやすいので特に注意する。
- 粉剤や液剤で防除する場合は、防除適期を逃すと著しく効果が低下するので、必ず穂ばらみ期～出穂期に防除する。
- 耐性菌を生じやすいので、同一グループ薬剤の連用を避ける。

② 紋枯病（発生時期：平年並、発生量：平年並）

→【ほ場での発生を確認しています】

- 前年の発生の多かったほ場では特に注意する。
- 防除の目安は、極早生・早生品種では発病を認めた場合、中生・晩生品種では出穂20日前の発病株率が15～20%以上。
- 病勢進展初期（幼穂形成期～穂ばらみ期）に株元までよくかかるように薬剤を散布する。

③斑点米カメムシ類（発生時期：平年並、発生量：やや多）

→【クモヘリカメムシやホソハリカメムシなどの大型カメムシの発生が多い傾向です。防除情報第4号「斑点米カメムシ類を適期に防除しましょう」を確認しましょう！】

- 畦畔や雑草地にカスミカメムシ類（アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ）の発生が多い場合は、乳熟期頃（出穂7～10日後）に防除する。
- 出穂期に大型斑点米カメムシ類（ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、トゲシラホシカメムシ）が確認できるほ場では、糊熟期頃（出穂10～20日後）にも防除する。

④コブノメイガ（発生時期：早、発生量：多）

→【ほ場での発生は早く、発生量も多い傾向にあります。ほ場を確認するとともに、今後の情報に留意しましょう！】

- 9月上旬までに収穫可能な極早生・早生品種では、防除の必要性は低い。
- 晩生品種や晩植田、直播田では被害が発生しやすいので特に注意する。
- 防除の目安は、中生・晩生品種では、8月上旬の被害株率が20%以上、または8月中旬に上位2葉の被害葉率が20%以上とする。



病害虫トピックス ～BLASTAM編～



【BLASTAMって？】

- ・「BLASTAM」とは「アメダスの気象データを用いた葉いもちの感染好適日の予測システム」のことで、この名は、いもち病（blast）とアメダス（AMeDAS）の造語として名づけられました。
- ・システムの基本は1988年に発表され、アメダスデータ（降水量、日照時間、風速、気温）をもとに、イネへのいもち病菌の感染を予測しています。

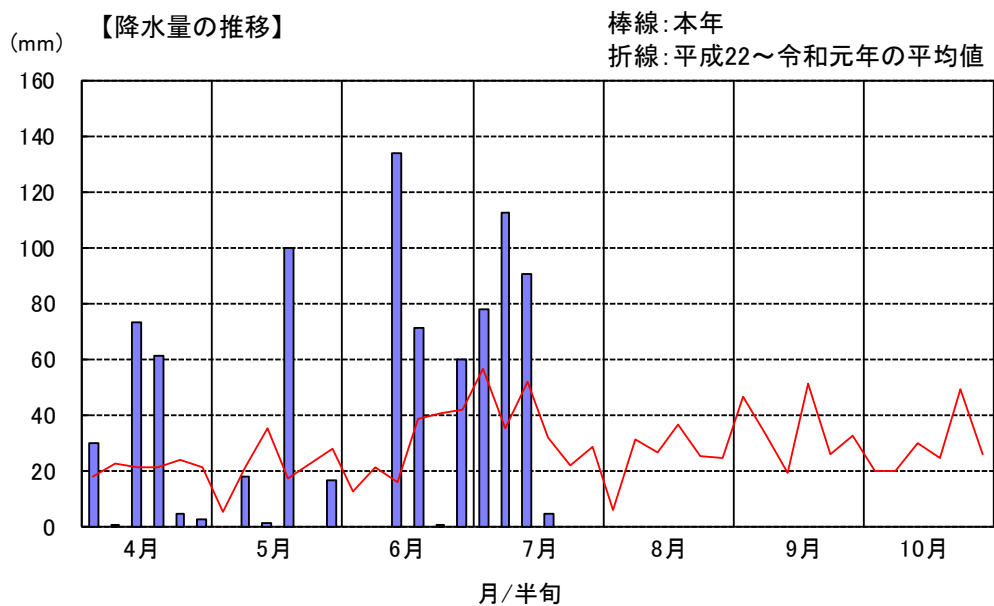
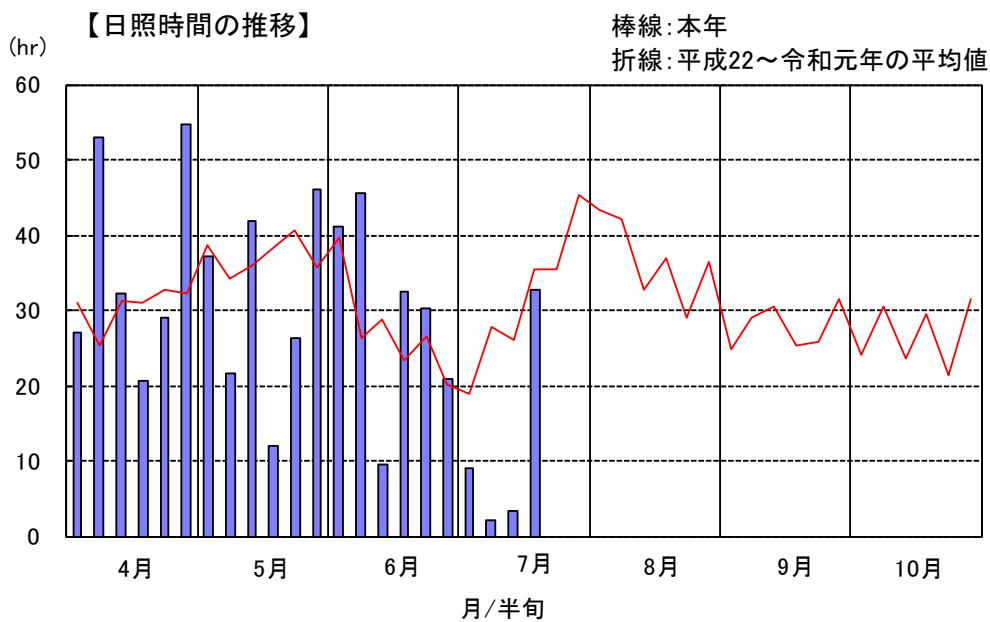
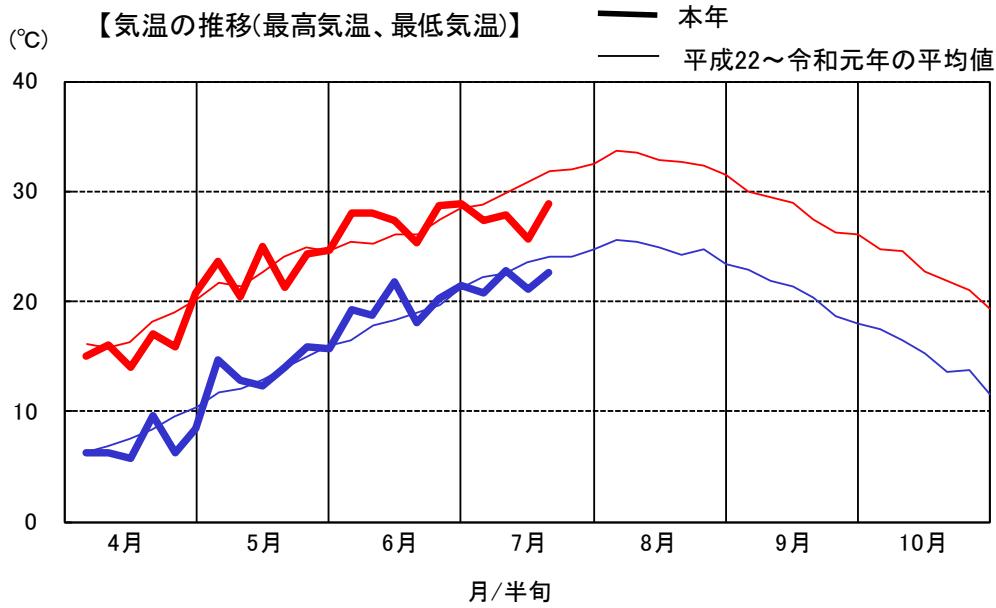
【BLASTAMの使い方】

- ・BLASTAMはいもち病菌の感染生態を解析し、モデルとして構築されています。判定結果が「感染好適」となった場合、いもち病菌がイネに侵入し、いもち病に感染するのに好適となります。ただし、実際に病斑が人の目に見えるまで、「感染好適」出現から1週間から10日は必要です。
- ・本県でも過去にBLASTAMの現地適用性試験を実施し、比較的適合していることを確認しています。ただし、いもち病に強い品種や育苗箱施薬剤を施用したほ場では、「感染好適」が出現しても必ずしも発病するとは限りません。また、生育が旺盛となる出穂期近くには適用外となりますので注意が必要です。

【参考サイト】

| | |
|------------|---|
| 農業技術振興センター | http://www.pref.shiga.lg.jp/g/nougicenter/ |
| 病害虫防除所 | http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/ |
| 彦根地方气象台 | http://www.jma-net.go.jp/hikone/ |
| 早期天候情報 | http://www.jma.go.jp/jp/soukei/ |

令和2年(2020年) 水稻作期間半旬別気象図(彦根気象台観測)



注) 平年は平成22~令和元年の平均値.

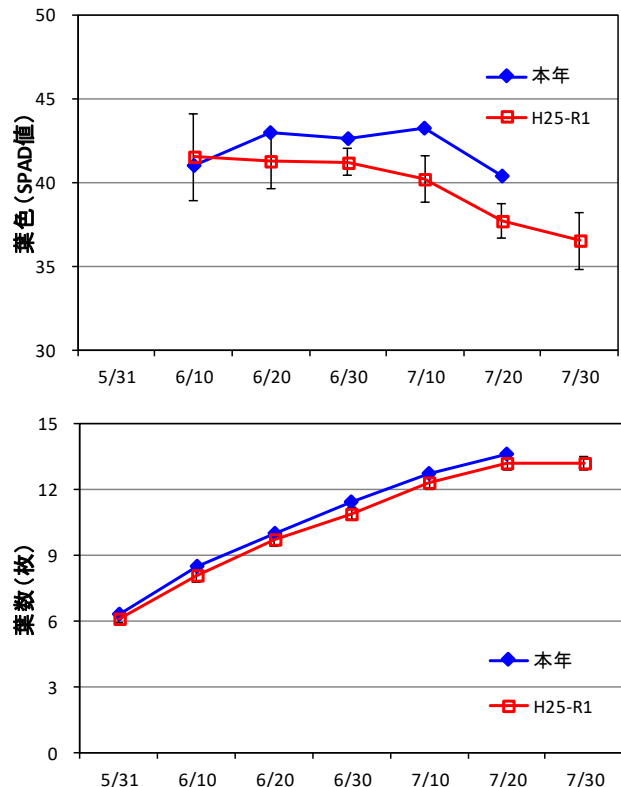
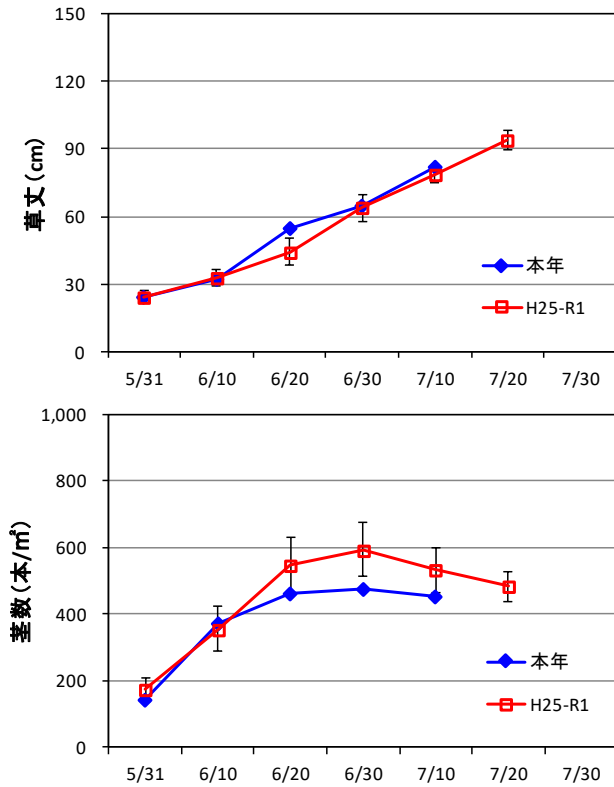
5月,7月,8月,10月の第6半旬の降水量および日照時間は6日間の合計値.

令和2年(2020年) 水稻作況調査 生育調査結果

農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

【みずかがみ】

播種:4月21日、移植:5月11日、栽植密度:18.5株/㎡、植付本数:3本/株



【コシヒカリ】

播種:4月21日、移植:5月11日、栽植密度:18.5株/㎡、植付本数:3本/株

